

2



0002868000

0002868-000

特251-312

軍国宰相論

大沼広喜・著

東京情報社

昭和18

ABA

この著作物は、著作権者不明のため、著
第67条の規定に基づき、平成12年3
付けで文化庁長官の裁定を受け使用する

549

特 251

312

広
弄
著

Ⓢ
十五
銭

軍国宰相論

ど
ん
な
人
が
よ
い

東
京
情
報
社

特251
312



大沼廣喜著

軍國宰相論

東京情報社



目次

一、宰相の評判……………三
二、宰相とは何か……………九
三、平和時の宰相……………三
四、軍國の宰相 上……………七
五、軍國の宰相 下……………三
六、東條首相……………六

一、宰相の評判

宰相、即ち、内閣總理大臣なるものは、我が、内閣官制が制定されてから、約六十年足らずであるが、その地位、職掌が、最高のものであるに拘らず、現職者は、必ずしも、國民から好評を博するとは限らなかつた。

勿論、國民は、この顯要な職にある人に對して、一面絶大な尊敬を表示するが、一部の男女、政治的知識階級、又は、政黨時代ならば、その反對黨なる人々は、首相、その人の政策を、かれこれ批評し、そればかりでなく、一言居士なる批評家がゐて、悪しきまに云はねば、氣がすまぬかにさへ、見えるものがあつた。

時の宰相、内閣に附和雷同して、一にも二にも、之に迎合するものも、必ずしも、國民のよい習慣ではあるまいが、これと反對に、無闇と、内閣の政策に、なま半化な批評を加へたりケチをつ

けるのも考へものである。

今は、既に、十年の昔時ともなつたが、政黨の華かで、猫でも杓子でも、政黨入りをし、憲政の常道とか云ふやつで、政權爭奪をしてゐた頃は、反對黨の首領が、内閣の主班となつた時には何が何んでも、反對したのは、これは、止むを得ぬとしても、政策以外の、人身攻撃迄やるのだから、首相とか大臣と云ふのは、缺點だらけ、政策は、失敗だらけで、なつてゐないように、新聞などには書かれたものである。

だが、苟も、大命を拜受して、内閣の首班に立つが如き人は、尋常一様の凡人ではなく、六千萬、八千萬、一億と云ふ國民の中でも、傑出した人であるから、そんな馬鹿々々しいことのあるものではないが、人間と云ふのは、人のアテは探せるし、あれこれは云へるものである。

最近、政黨内閣が退却して、軍國の内閣が組織されるようになってから、宰相に對してあれこれと、聞き苦しい批評をする新聞もなければ、人もなくなつた。

況んや、支那事變が、深刻となり、大東亞戰となつてからは、舉國一致、國家の爲めに奮勵努力するときであるから、内閣の區々たる政策のあげ足をとる時ではない。

その爲めでもあるまいが、現首相の東條大將は、宰相としては、評判のよい一人であると云へる。

一體、日本の宰相なる人々は、心なき人々のいろ／＼の批判はあつても、天下一流の人物であつた。

初代の内閣總理大臣となつた伊藤博文は、維新の元勳たるは云はずもがな、山縣有朋、松方正義、大隈重信、桂太郎、西園寺公望と數へ上げると、皆、英雄偉人と奉るような人々である。

だが、最近、昭和の時代に入つてからは、以前のようにならずしも一流の人物でなければ、内閣の首班になれぬと云ふことでなく、政黨の首領であれば、必ずしも一流でなくとも首相になれたし、最近では、二流、三流の人と思はれる人でも、首相の位置につくようになった。

支那事變以後、内閣の平均壽命が、六ヶ月とか云ふから、佛蘭西の有名な内閣更迭のレコード

が、日本に来るでないかと悪口のたゞかれた位であつたから、従つて、必ずしも一流の人物のみで、組閣は出来なかつた。

が、必ずしも、二、三流の人物文けが、組閣した譯けでなく、一流の人物として、平沼、近衛と云ふ、金箔のついた人もあつた。

一流の人物が、首相に適するか、二、三流の人が首相に適さないかと云ふことになると、それには、又、いろ／＼と議論がある。

尤も、人は、生れながら、一流の人物になつて、首相の資格を有するものでなく、政界の功績と人物の練磨とで、一流の人物にもなるのだから、二、三流の人物と看做される人でも、一度大命を拜し、國政變理に當り、その宜しきを得て、一流の人物になり、立派に首相の職責を盡すこともある。

日露戦前に、風雲急な頃、首相の職に就任した、桂太郎公は、當時、未だ、五十四、五歳の少壯で、先づ、どう見ても、一流の人物ではない。二、三流とでも云ひたい、大臣級の人物であつ

た。

戦前のことで、政策が、仲々むづかしい。それで、内閣の主班になる人がないのでお鉢は陸軍大臣を長くやつた桂大將へ廻つた。

世間の岡焼や、悪口屋は、三日天下、緞帳内閣、の何んのと批評したが、日露の風雲が雷となり雨となつて、戦の嵐の中に、前後五ヶ年、日本の最長期の内閣を維持して、天晴、天下の大宰相となつた。

だから、二流、三流と思はれた人物が、必ずしも、不適當な宰相とは限らない。これと反對に、一流の人物が組閣しても好く行かぬこともある。

閑話休題だが、話は、元に戻つて、現宰相の東條大將は、首相となる前の人物觀としても、公平に見て、一流ではなく、先づ、二、三流、大臣級の人とみられた。

それが、近衛内閣動搖の地震の中に、首相の印綬を帯びたのだから、一寸意外とした國民が多

かつた。

然し、宰相としての點數は、やつて見なければ、わからぬことで、人物の箔が少ないからとて早く點數をつけるものではあるまい。

前述の如く、日露戦前後の桂首相の例もある。

そは別として、一中將、一陸軍大臣の東條が、日支事變、歐洲大戰、日米交渉と、かたつばを飲む空前の緊張裡に、宰相となつて、滿一ヶ年半にもなつたが、東條宰相は、何等迎合的意味でなしに、公平冷靜にみて、可なりの好評の下に、東奔西走の奮闘であると云へる。

東條宰相の好評は、必ずしも戦時なるが爲めのみであるのか、それとも、その人物手腕によるのか。

戦は、宰相の身の上に影響もあらうが、宰相の人物手腕が、一原因かも知れない。

二、宰相とは何か

一體、宰相々々と云ふが、それはどんな意味かと問ひたい。こゝで云ふのは、勿論、内閣總理大臣のことであるが、その本元の意義は、どんなものであるのか。

我々の日常用ゐてゐる熟語は、支那から渡つたものが多いが、「宰相」なる熟語も亦然りである。

然らば、支那では、どんな意味に用ゐられたかと云ふと、宰相とは、支那の高官で、天子を輔相して天下の政治を主宰する官吏を指すの意であるが、未だ嘗て、宰相といふ官職はない。たゞ、秦、漢時代の丞相、三公、唐宋の中書、門下尙書三省の長官及び、明の大學士、清朝の軍機大臣大學士等を、通例、宰相と稱してゐる。

我が國では、昔時、參議を宰相と云ふたことがあるが、これ等は、皆、歴史的の記事となつて

現在では、宰相と云へば、吾人の日常では、内閣總理大臣の意味である。

尙、序であるから、内閣制度に附いて、少し、外國の方面を加へて置く。

内閣と云ふ文字は、支那にあつたけれ共、明治になつて用ゐられてゐる「内閣」なるものは、多分に、英國の「内閣」の翻譯の意味がある。

勿論、日本の欽定憲法は、英獨其他のものと異なるからその内閣の宰相の地位も同じではない。

英國では、七、八百年も前に出來た、マグナ・カルタなるものが、英憲法の根本法とされ、内閣は、人民に對して責任を負ふもので、即ち、下院に多數を有する政黨の首領が、責任を負ふて王の命で組閣するのが普通である。

これを、「責任内閣制」と云ふ。

日本では、内閣が、議會に對して責任を負ふ、負はんは、暫く別として 天皇の大命を拜したものが、宰相の地位につくので、英國の「責任内閣制」と同じき性質ではなく。

獨逸の帝制時代の内閣には、ビスマルクとか、ヒュローとか、ベートスマン・ホールウキヒとか、大宰相の地位にあつたが、この制度も、必ずしも、議會に對して責任を負ふものでなく、即ち、多數黨によるものでなく、カイゼルの命により、カイゼルの信任に依つたものである。

其他佛國の内閣は、多數黨の支持を必要と看做すべく、米國は、大統領制度であるから、他の君主の下に、内閣總理大臣が施政を行ふのとは異なるが、多數に依つて選舉せられ、四ヶ年更迭のない所に特色がある。即ち、選舉せられた時は、四ヶ年間は、好む好まぬに拘らず、政治の主班たることが出来る。

近時、伊太利のムソリーニに依るファセツスト内閣、ヒットラーに依るナチスの内閣の如きは、一つの特色ある制度である。

其他、ソ聯のスターリン赤色政權、重慶に抗日する蔣の政權の如き、特種の存在もあるが、今は、これ等の論評が主でないから、たゞ、以上の羅列に止めて置く。

日本でも、一時、「政黨内閣時代」と稱して、衆議院に、多數を擁する首領が、内閣の組織を

命ぜらるゝ形もあつたが、その本質たる 天皇政治には、何の影響なく、英の「責任内閣」「政黨内閣」と同一視すべきでない。

とにかく、「宰相」なる意義と、その内閣制度に關して、お粗末ながら、その意義を述べたが故に、更に筆を進める。

三、平和時の宰相

人類の構成する國家や社會は、平和の時代が何パーセントあつて、戦時がイクラ／＼かと云ふと、その學者の正確な統計は、筆者は未だ調べてゐないからよく解らないが、平和時代と戦時との統計を取つて見たらば、各々大した差異はあるまいと考へる。

我が國の歴史を見ると、神武帝の時代には、九州から大和に遷都されたので、これに伴ふて戦もあつたが、その後は暫くの間は平和があつた。

咲く花の如くに榮えたと言はれる奈良時代には平和であつた。平安京時代に這入ると、藤原の榮華と共に平和の時代もあつたが、所謂源平の時代となつて戦亂もあつた。

平家を滅した源頼朝は、建久三年、紀元一八五二年に征夷大將軍に任ぜられ、幕府を鎌倉に開いてから武家政治の時代となつたが、必ずしも平和のみでなく、承久の亂があり、建武中興の兵火あり、元寇の戦もある。

足利時代の末には、應仁の亂後天下麻の如く亂れて、戦國の時代となり、徳川家康が稀れな政治の大手腕で、三百年の太平を保つたのは、大出来榮えであつたが、明治維新後の帝國は 明治大帝の盛時となつても、戦時と平和時とは交々來つて、必ずしも平和時代とは云へない。

その類例を世界的に見ると、支那では五千年の歴史は易世革命の経路であつて、戦争が随分と多い。戦亂が絶えない。

西洋ではどん方風かと云ふと、早くからキリスト教で愛の教へたと稱してゐるものゝ、戦争は少ないと云へぬ。

太古は暫く別として歴史に現はれた所を見ると、西暦紀元前五〇〇年から四四九年まで、ペルシアとギリシヤの戦があつてから、ペロポネサス戦争、マケドニアのアレキサンダー大王の覇業、ローマとカルタゴの戦、中代の歐洲戦亂時代、百年戦争、三十年戦争、フランス革命、奈翁戦争さては、普墺、普佛、第一次、第二次の世界大戦と數へ上げると、戦と平和とは半ばすると云へる。

かくの如くに、何れの地と何れの時とを問はず、平和のみあつて戦のない國はなく、戦のみあつて平和のない國もない。

従つて平和の時代に宰相となつたものが所謂、平和時の宰相であつて、戦亂時代の宰相は戦時の宰相である。

だが、世の中は、數年の内にさへ種々と變化するから、平和の宰相が軍國の宰相となつたりして、二つを兼ねることが随分とある。

後にも述べるが、伊藤博文公の如きは、四度も、内閣を組織したが、平和の宰相たりしことも

あり、亦、軍國の大宰相たりしこともある。桂太郎公の如きも亦然り。

こんな風ではあるが、この項では、「平和時の宰相」を少し語つて見る。

平和時の宰相は、軍國の宰相とは異つて、國家の非常時、國運を賭して戦ふと云ふ機方時でないから、その責任に於いて、多少輕しとも云へる。身輕でないにしても、エトリのあるのを思はしめる。

然し、考へ方では、平和時と雖、常に國運の進展に努めなければならず、戦にも備へるから、一概に、樂だとは云へぬ。

我が國で平和時の宰相となつたのは、伊藤博文、松方正義、桂太郎、西園寺公望と云ふ様な人々がある。皆、夫々平和時の政策を行ふて、大過なかつた。桂公の如きは、日露戦後第二次桂内閣を組織したが、平和時代としては、仲々よい政治を行つて、桂の政治家としての手腕を一段と高めた。或は、高め過ぎた感さへあつた。

近代に於る政黨内閣時代は、その原敬にしる、加藤高明にしる、犬養、濱口、田中義一にして

も、皆、平和時の宰相である。近衛文麿、平沼騏一郎などは、非常時の宰相だと稱されてゐる。尤も、支那支變もあつたから、必ずしも平和時の宰相とは云へぬが、嚴密な意味に於ける戦時宰相とは云へぬ。

何故となれば、支那事變は、必ずしも戦争でなく、文字の示す通り事變であつて、平和時と、戦時との中間に位するものである。

明治時代から現代迄、嚴密な意味での戦時は、先に日清、日露の戦時と、現在の大東亞戦時と三回で、あとは平和時の宰相と云ふでよい。

平和時の宰相は、戦時でないから誰れでもよい、と云ふのではないが、貫録とか、第一流とか、重味とかある人であればよい。例へば、伊藤博文公とか、最近では近衛文麿公と云ふ人はそれだ。

近衛公の如きは、聰明であり、家柄は貴族として申分ないから、平和で大したことの無い時は、先づ無難な宰相たる資格を具備してゐる。

第一次の近衛内閣は、それに近い例と見てよい。

だが、その次の近衛内閣はどうかと云ふと、これは、平和の内閣たると、戦時前の内閣たるとを問はず、組閣、そのものに、吾人の了解に苦しむ數々があつた。

その爲めかどうかは別として、組閣後の内閣は無類の難行で、改造又改造、遂には、大命を拜辭して内閣を投げ出し、辛じて、第三次内閣を組織すると云ふことになり、好ましいからぬ結果となつた。

ともかくにも、平時の宰相には、何人がならうと、國運を左右する程の重責はないから、陛下の大命あるものは、何人と雖も差支へなく、その責に任すると云ふてよい。

四、軍國の宰相 上

平和時の宰相は、前に述べた通りであるが、さらば、軍國の宰相は、どんなものかと云ふと、

軍國の宰相は、戦時國運を賭して戦ふ國の重責を双肩に擔ふと云ふ點で、平和時の宰相の比較にならぬ。

先づ、日本でこの重責を擔ふたのは、伊藤博文の日清戦争時代の宰相、桂太郎の日露戦争時代の首相である。

それに、現在では、大東亞戦争を戦ひつゝある東條大將である。

この三人は、眞に、軍國の宰相と云へる。外國の例で、軍國の宰相と云へば、その理想的とも云ひたい人に、一八六六年の普墺戦争、一八七一年の普佛戦時代に、プロシアの首相であつたビスマークがある。

必ずしも、古今に冠絶するとは云はぬ迄も、近世歐洲史上で、軍國の宰相として、ビスマーク程に華かで、勝つ戦であつた宰相はない。

ビスマークは、一八七一年の普佛戦後、獨逸帝國の大宰相として、三十年も勤めたから必ずしも、戦時丈けの宰相ではないが、戦時宰相としての影はあまりに華々しい。

米國では、一寸宰相とは云ひ難いが、大統領としては、建國の際にワシントンあり、南北戦争時代にリンカーンがある。この兩人も軍國の主腦者としては相當の名聲がある。

だが、ビスマークの様な華々しい宰相振りには古今に珍らしい。

x x x x x x x

日本の軍國宰相の代表たる伊藤と桂とは、共に、大宰相としても、我が國の代表者である。伊藤は、英のクラットストーン同様に前後四回の組閣であり、桂は三回である。日本の内閣制度が設けられてから、宰相は随分と多いが、三回以上組閣したのは、この二人である。

尤も、臨時總理大臣とか、總理大臣代理とかは別である。大命を拜して正式に組閣した人のことである。

東條大將も亦、軍國の大宰相であるが、これは現職であつて、どんな軍國宰相であるかを結論的に批判するのは未だ早いのである。

何故となれば、戦は未だ半であり、現職の宰相で、これも半であるからである。

日本の過去に於ける二大軍國宰相と云ふべき、伊藤と桂とはどんなものか」と云ふことを書いて見る。

伊藤は、文官出身である。その爲めか、戦争に對して臆病でなかつたかと思はれる點もある。日清の戦の折に、時の參謀次長川上操六が、伊藤首相に、朝鮮の出兵を一ヶ混成旅團と報告した。伊藤は、軍事の専門家でないから、一旅團位ならばよからうと云ふので出兵に同意した。所が、豈はからんや、一混成旅團は、約一ヶ師團近くで、こゝに日清の戦となつたとの噂が今迄残つてゐる。

然し、伊藤首相が臆病であつたか、なかつたかは、暫く別として、戦に積極的でなかつたかに見える。

日清戦争をやつたのは、外務大臣の陸奥と川上參謀次長だとも云はれる。

だが、伊藤の軍國宰相としての采配振りには、どうかと云へば、必ずしもまづくはない。

開戦一年ならずして、清國に和を乞はしめたのは別として、清國の二全權を廣島から追ひ返し

た、支那第一の人物李鴻章をよんで、相當効果のある下の關係約を結んだり、殊に、清國をあのまゝにし、北京迄進まぬ中に、和を結んだ當りは、一寸、素人には出来ない藝と云へる。

もし、この時、支那に内亂起り、清朝が滅亡する如きことあれば、講和をやるにも相手がなく従つて、臺灣も取れず、償金も取れなかつたかも知れない。

清朝はそのまゝ李鴻章も押へてゐたので、ある成果も出来たと云へる。

伊藤はこの戦果で大勳位侯爵となつたが、彼は一時辭退するの何んのと云ふた。

然し極秘で讀者に一言して置くが、伊藤は稗氣滿々でこく面白い所のある人で、爵位とか勳章の嫌な人でないことを一言して置く。

その爲めかどうかは知らぬが、この辭退のことも噂で拜辭とはならなかつた。

それに軍國の宰相として熾和の全權をも兼ねたが、あの三國干涉を手際よくかたつけたのも功績の一つである。

尤も外務大臣としてカミソリ陸奥宗光あつたことゝ、日本當時の國力の弱少が却つて大禍なか

らしめたと云へるかも知るべからずだが、とにかく戦勝國の宰相として及第點を取つた。

次に軍國宰相は桂太郎公である。此の人は徳富蘇峰を參謀などに用ゐたことのある人で、仲々世界的經綸があつた。こんな點は伊藤公に似てゐる。

小僧内閣、三日天下と云はれながらも組閣すると八面六臂の働きをして、あの日露の大戦を實際よくかたづけ、大勳位、侯爵となつたあたりは伊藤の日清役に比すべきである。

かくて日本の過去に於ける軍國宰相は二人共及第點と云ふてよい。

その外に北滿事變、日獨戦争、支那事變等はあるが、未だ軍國宰相時代と云ふ迄に及ぶまい。眞の軍國宰相は今大東亞戰の宰相東條大將を以つてその後を次ぐと云ふべきである。

五 軍國の宰相 下

軍國の宰相を論じた序に現大戦時の軍國宰相たる敵味方數國の宰相も一言して置きたい。

ヒットラーは大總統で宰相と異り一國の元首とも云ふべき人であるが、その國の軍事、外交、政治の大本を掌握する意味で大宰相の如き形にあると云へる。伊太利のムソリーニは文字通り軍國の宰相である。

此の兩人は具に人生の勞苦をなめた苦勞人で、共に長い間國政の處理に當つた人、軍國の宰相としては蓋し代表的と見てよい。

この外現大戦下の軍國宰相としてソ聯にスターリン首相、重慶に蔣介石、米國にルーズベルト英にチャーチルが居る。

この四人は何れもその國內の第一人者で、戦時下の宰相もしくはその主腦である。

だがこの四人は何れも國內に紹介され盡したもので、その軍國の主腦として詳述するまでであるまい。たゞ極く簡単に紹介するならば、スターリンと蔣介石は勞苦から叩き上げた人、ル大統領とチャーチルとは何れも名門又は貴族の出身である。

然しこの四人とも危険な戦時にともかくも宰相又は宰相に近き重職にあり、國民を指導してゐる

るのを見ると、どこかその重責を擔ふに足る何ものかを有すると云ふべきである。

この四人の中、スターリン、蔣介石、ルーズベルトは各々宰相と云ふよりは一國の元首とも云ふべき人々である。

スターリンは以前はソ聯の書記長と云ふ名で他國であれば一無名の地位に過ぎないが、その實はソ聯の實權を握る人物で一寸元首の權力を有してゐた。

今でこそ首相の位置にあるが、この首相たるや元首と首相を兼任したが如き觀で、日本や英國の首相とは異なるのである。しかも獨逸の強陸軍に對抗して戦ひつゝあるので相當の人物と云ふてよ。

蔣介石も行政院長と稱するのであつたが、事實上重慶の首腦で實權者である。日本にも留學し知人も多い。

どんな風の吹きまはしか宋美齡と一緒になつて、日本に弓をひくなんてつまらぬことをやつてゐるが、重慶に於ける軍國宰相として誠にならぬ所をみると未だ人氣があるのか。

一體彼は抗日を本職として居るのか、それとも戦は彼の抗日を餘儀なくして居るのか、何れにしても日本に取つては甚だ面白くない存在である。速な反省こそ望ましい。

ル大統領は三度大統領となり、來年又出馬して四度大統領候補になるとか云ふ噂もあるが、その眞偽は不明である。戦争の製造者で、無闇と英皇室を崇拜する所は、我々の了解に苦しむ。アメリカ人はどうして四度も彼を大統領候補にかつぎ出すのか不思議とも云へる。

後の残りのチャーチルは支字通りの大宰相で、一時は彼の失脚も噂されたが鼻柱の強いので何んの彼のと云ふてもその地位に納つてゐる。ピット以來の軍國宰相とうぬぼれてゐるらしいが、英國ではクリツプスやイーデンでは未だ納まらんとみえる。

これ等味方敵の軍國宰相又は宰相に相似たる主腦者を論ずれば限りないから、此の邊でやめて次に日本の現軍國宰相を語つて終りたい。

六、東條首相

東條首相は度々記したように日本の戦時首相としては第三人目である。即ち第一人目は伊藤博文の日清戦役時代、第二人目は桂太郎の日露戦役時代、それに東條の大東亞戦時代と云ふことになる。

今から見れば何んでもないように見えるかも知らんが、日清、日露の役は國運を賭した點では今次大東亞戦と異らない。

従つて當時の首相であつた伊藤、桂の苦心は大に多とすべきである。

それと同時に戦時の宰相として相當もしくは相當以上の成績を上げてゐる。

現戦時宰相東條大將はどんなかと云ふと、これは前にも觸れたがこれ批評するものあるかどうかは知らんが、筆者の知る範圍で又直觀する所では先づ評判がよい。

東條首相は見た所では英雄偉人と云ふた體の大きな堂々たる形の人ではない。寧ろ體格も小柄であるし、風彩が特に衆に優れてゐるのではない。

伊藤公にしても桂公にしても體格の上から見れば似たりよつたりで、西郷だとか云ふたあんな飛び離れた風貌はない。

然らばどんな所が評判がよいかと云ふと、まあ種々あるとして、

一、陣頭指揮的に活動すること

これが東條首相の最も國民に好評を博する點でないかと思はれる。

日清戦役時代の伊藤公の働きはよく解らないが、多分首相としてよく働いたと思ふ。日露戦役の桂公は徳富參謀に云はしむれば「八面六臂」の働きだと云ふから、今の言葉に譯すれば、

「陣頭指揮」と云ふことになる。

それにこの二人共五十歳代の働き盛りであつた。

東條大將も五十歳臺で陣頭指揮と云ふのだからどこか共通點がある。

人に依つては、一國の宰相が朝夕街頭に出て、民情を探るのは輕々しく考へるかも知らんが、天下の機微は案外そんな所にあり民心の把握にも必要かも知れん。

今は昔し、天下の名宰相とも云ふべき北條時頼は、民情の視察に出かけたし、徳川中興の平和時代の宰相吉宗は、「目安箱」を作つて民情を知つた。

天下第一の人物が首相の地位にあつて、その重味と箔とで政をとると云ふことや、傳統的家柄で重きをなすのも、その時、その必要に依つては必ずしも不可であるまい。

然し國家非常の時には寧ろ人生の辛酸を知る人物が、挺身垂範的に陣頭指揮する政治が効果的であるかも知れない。

二、政治家としての東條

第二に挙げたいのは政治家としての東條である。

東條大將は元より軍人である。陣頭に立つて三軍の將たるはその本面目である。だが廟堂に立ち議政を指揮するのはその本質でない。

勿論、軍人と政治家、殊に、國務大臣としての軍人と政治家の間には、醫者と僧侶と云つた非常に遠い差異はない。政治家が軍の指揮は出来なくとも、軍人が政治家たることは必ずしも、類例のないものではない。

今は昔し、シーザーは軍人であり、政治家であり、文章家であり、歴史家でもあつた。

近世では奈翁が矢張軍人であつたが、政治家でもある。昔しから軍人で帝王を兼ねた人々は皆政治もやつたのである。

日本でも、軍人で政治をやつた人は随分と多い。先の軍國宰相として好成績を挙げた桂公、元より陸軍大將である。

だから、政治に携るのはよいが政治的理解と手腕はどうかと云ふのが問題になる。

宰相にはなつたが、肥料の分配を心配したり、議會の解散を誤つたりしたのは、折角降下した大命を維持することが難かしくなる。

それでは、困る。

所が、東條首相は、去る八十一議會を通じて見た所丈けでも、軍人としては、多分に政治的
解を有つてゐる。

これは一人筆者のみの感想であるまい。

首相と同期の軍人などからきくと、

「東條は、頭がなか／＼よ。」

こう批評してゐる。カミソリの如きかどうかは別として、切れる、解りがよい。聰明であるら
し。

その爲めかどうか、政治のことも飲み込みがよいのか、議會の答辯などをみると、ヘマをやら
ん計りでなく、頌徳表を奉るのでないが、讚辭を呈して置けば、堂に遣入つた答辯が多い。

あれ丈けにやれば、一政治家としてもゆうに及第である。この點桂公に並ぶと云ふても過ぎた
とは云へませう。

八十一議會の酷な頃、二月五日、特別委員會で、石川縣出の喜多壯一郎氏が、首相権限強化

と獨裁政治に付いて質問すると、

首相は答へて曰く、

「私は草莽の臣で、只陛下の命で重責にあるのみで、歐米のヒットラー、ルーズベルト、チャ
ーチル、スターリン、ムソリニーと異なる。獨裁政治なし」

と答へたあたりは、當然と云へばそれまでだが鮮かなものである。

その他、現職の首相としては、前例ない外國行をなし、中國、滿洲、南方迄も訪問し、四月二
十日の夕べには、難事と云はるゝ内閣を改造し、こゝ大童への活動である。

戦時下の宰相を語り、東條首相に及んだが、駄文多く、辻褃の合はぬことも多く、その意十分
からざりしものもあるも、餘白なく、此の邊で筆を擱く、讀者の諒を求む。………(終)

筆者 紹介——大沼廣喜——早大政治科卒——東京情報社々員

434
192

本社發行目錄

戰爭製造者を語る	赤都モスワ	日本海軍	ユダヤ人の動向	日米抗争の検討	英國はどこへ行く	米國の對日反擊論	日本陸軍	蔣介石はいつ迄戦ふか	軍人宰相論	太平洋上の新戦局	中國の重大戰	空軍の重大戰	日ソ國交の機微
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
送料四錢	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

御注文は前金にて、便宜の方法で御送り下さい。

東京市淀橋區諏訪町百十一
東京情報報社
振替口座東京一七三、六一〇

出文協承認490430號

版権所有	軍國宰相論	定價十五錢 (送料四錢)
昭和十八年五月二十日印刷		
昭和十八年六月一日發行		
著者	大沼廣喜	
發行人	東京市淀橋區諏訪町一一一番地 大沼廣喜	
印刷人	東京市小石川區戸崎町九六番地 中橋印刷所	
發行所	東京市淀橋區諏訪町一一一番地 東京情報報社	
	振替口座東京一七三、六一〇	
	日本出版文化協會 會員一二〇〇六〇	
	東京市神田區淡路町二ノ九	
	配給元、日本出版配給株式會社	

元衆議院議員 朝日新聞社々友 神田正雄著
謎の隣邦支那
 定價一圓五十錢
 送料十六錢

著作は知名の支那通、本書は變轉極りなき支那の成行を觀察する鍵ともなるべき知識を網羅す。國民性社會組織、政治や經濟に至るまで極く平易に面白く書いたもの、凡ては著者四十餘年の鋭い觀察の賜で、正に一讀すべし。

小林 新作著
華僑の研究
 定價一圓五十錢
 送料十六錢

華僑は日支事變以來我が國人研究の對照である。本書が初めて華僑の研究を遂げて之を體系づけたもので、數百年來の歴史と民族性とを穿つて華僑活躍の實體を見届けた驚異的研究發表で、必ず一讀すべき好著。

元衆議院議員 朝日新聞社々友 神田正雄著
躍進支那を診る
 定價一圓五十錢
 送料十六錢

陸軍大將本庄閣下の序文、著者は天下知名の支那通、數十回に及ぶ支那旅行觀察を経て、中支、南支の全貌を紀行文に綴つたもの。時局下一讀の値あり。

東京市淀橋區諏訪町一一一
東京情報社
 振替口座 東京 一七三、六一〇